



～小・中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第7号

学びのコンパス



事例 18

嵯峨小学校の実践例から……

3本柱で着実な学力アップへ

嵯峨小学校では、学力向上プロジェクトを「トライクプラン」(“trike”は英語で「三つの車輪」を意味する)と名付けています。授業改善, スキルアップ, 学習規律を三つの車輪に見立て、学校体制でPDCAサイクルを通したマネジメントを行い、学力向上に向けた取組を継続的に改善しています。今年度の全国学力・学習状況調査では、基礎・基本の力の積み上げとともに、算数B問題で、顕著な成果を挙げることができました。

★取組の「成果と課題」は可視化し、共有化を図る。それを中学校へつなぐ。〈小中一貫教育の視点〉

授業改善

探究力・活用力の育成
(自ら学ぶ力を培う)

すべての教科の学習で

発問等では正確な表現を心がけ、子どもにも正しく指導する。



文字や用語, 単位等は, 最初の出会いから正しく丁寧に指導する。

学年で指導方針を統一し, 学びの足跡が残るノート作りを進める。



月1回のノート検定(算数科)を実施し, ノート作りを評価する。

算数科の授業で

- 「めあて」は子どもたちが問題から発見できるように
- 「自力解決」で考え続ける子ども・答えが正しいかを確かめる(逆算)
- ・他にも解き方はないかを探す。
- 自分の考えを説明する力を
- ・立式を言語化して説明する。
- 「集団解決」ではゆさぶる発問を
- ・根拠やよさを問ひ, それらを一般化したり共通化したりする。
- 効果的なグループ学習・ペア学習
- ・どこに何のために取り入れるか。

研究だよりの発行

研究活動の活性化を!

研究主任が配信
ミドルリーダーの育成

- 研究組織や各部会の取組紹介
- 記録から研究授業をふり返る。
- 構造的な板書
- 言語活動を通した「学び合い」
- 次の研究授業につなげる。

スキルアップ

徹底したくり返し学習
課題を選択する自学自習

漢字のくり返し練習

- 丁寧に, できるだけ多く書く。読み仮名も書く。(ノートに書く方法を指導する。)
- 確かめテストを実施。不合格の場合は課題を与え再テストを実施。

計算のくり返し練習

- プリントはファイルに綴じ, 子どもの頑張りを可視化する。ノートを活用するときは, 使い方を指導する。

音読のくり返し練習

- 音読の「めあて」をカードに明記。教師が指示した「めあて」から, 子どもが決めた「めあて」へ。

ステップアップ学習

- 授業の予習・テスト勉強コース
- 授業の復習・苦手克服コース
- 自由な課題の学習コース
- 上記のコースから子どもたちが家庭学習のメニューを考え, 自ら取り組むようにする。
- ステップアップノート(自主学習ノート)を少なくとも週に1回は担任提出。
- 取組の目的と方法, 記録を保護者に伝え, 家庭と連携・協力を図る。

○ジョイントプログラム等の結果や傾向を全教員で分析し, 学校独自の能力検定をスタート!

計算能力検定の実施

年2回全学年で!

学習規律

教室内に規範意識を!
学習環境を整える

よりよい学習のために

- 「持ち物」「授業中」「発表」「聞く」「書く」等の項目を, 児童が毎月点検シートでできたかどうか確認し, ルールの共通理解と徹底を図る。
- 話型やハンドサインについての共通理解と徹底を図る。
- 何度も「ふり返り」を行い, PDCAサイクルで規範意識の向上を図る。

教室のユニバーサルデザイン化

- 安全面や機能面, 児童の情緒面を配慮しユニバーサルデザイン化した学習環境を整備している。
- ・黒板周辺の掲示物を精選整理する。(カーテンも使い視覚的な刺激を調節する。)
- ・指導机, ロッカーやごみ箱, 給食台やテレビ台等を, 定位置に配置する。
- ・チョークは子どもの手にふれない場所に保管する。

エスノートの活用

嵯峨学園で取組を!

「S」は, 「Saga Gakuen」の「S」嵯峨中学校プロジェクトで共通の取組をしている。

詳細は次号で紹介します。

○中学校が, 自己管理ツールとして活用している「Sノート」を6年生で導入した。

○子どもは一週間の見通しをもちながら学習計画を立てる。家庭学習との連動も図られるようになってきた。

事例 19

藤ノ森小学校の実践例から……

教職員の主体性と指導の徹底による学力向上を目指して

藤ノ森小学校では、学級や学年に崩れがなく、どの児童も安心して学校生活を送れ、学ぼうとする意欲を高めるよう、すべての教職員が一致協力して取組を進めています。この数年間、学力は上昇傾向にあり、今年度の全国学力・学習状況調査では B 問題において一定の成果がありました。日々の授業を通して、児童が確かな力をつけていることを実感した教職員は、授業の質を高めるため、主体的そして組織的に学力向上の取組を進めています。

共

通

共

有

「藤ノ森スタンダード」の作成 ～学校生活のすべてにおいて指導の徹底を図る～

目的：学年や学級が違って、教職員が、「同じ姿勢で」子どもたちを指導するために、学校全体で「藤ノ森スタンダード」の共通理解を図る。

内容：「話す」「聞く」等の学習規律、座席配列の形態、持ち物や名札等、徹底したい指導事項を短文と写真で端的に示している。

効果：教職員が常時携帯し、適宜これを参照しながら、徹底した指導にあたることにより、子どもたちには「安心」「公平」の意識が生まれる。この意識を子どもの主体的な学びにつなげたい。

教師の学び合いから

授業が変わる！



○研究授業だけでなく、事前の授業も多く公開し、学年を越えて、お互いの授業の観察、協働での分析を行い、授業の質的な向上を図る。

○シニアマイスターやマイスターの立場を担う教員は、担当する教科や領域の授業を公開し、特性を意識した教科指導について、学校全体で学ぶ。

○先輩教員の授業から、積極的に学ぶ機会を設ける。

平成29年度版
藤ノ森スタンダード



京都市立藤ノ森小学校

授業改善の取組

「授業」「課外学習」「家庭学習」は連動している！（つながりのある指導を！）

問題解決を主体的に進める「問い」が大切！

○研究教科の社会科を中心に「問い」のあり方について考える。

○「問い」に、切実感や必要感をもたせる。（ICT 機器の積極的活用）

45 分間に対話がある授業を構築する！

○授業の中に、ペアやグループの話し合い活動を常に位置付け、習慣化する。

○「思考を深める」きっかけとなる対話のあり方を工夫する。



自主的な家庭学習を！

○学年が上がるほど、宿題から、「がんばり（自主学習）ノート」へと比重を移せるようにする。

○6年生は、家庭学習を自分で計画し、実行できるようにする。

主体的な学び

授業

対話的な学び

中学校へつなぐ

家庭学習

「まとめ」「ふりかえり」を文章で書く！

○「まとめ」〈学習内容のまとめ〉「ふりかえり」〈自分の思いや考え等の感想〉を文章で記述できるようにする。

○授業における板書の構成を工夫し、学びを深める上で効果的なノートづくりができるようにする。

教師の板書と子どものノートの連動を！

○子どもの思考を促し、深い学びに導く授業づくりに向け、「板書」の工夫と丁寧な「ノート」指導とを連動させる。



帯時間と土曜日の学習で基礎・基本の定着を！

○週4回の「チャレンジタイム」で、四則計算の練習ができるようにする。

○土曜学習（月1回）は漢字の学習をする。

○「読書タイム」で、読書習慣を身に付けさせる。

○各自の机には「ブックバック」を掛けておき、子どもが、すぐに読書に入れる環境をつくる。



ブックバック

課外学習

深い学び

事例20

小栗栖中学校の实践例から……

学校でできることを着実にやり切る！

小栗栖中学校では、「授業で生徒を変える」というモットーのもと、様々な厳しい状況にあった子どもたちに「学校でできることを着実にやり切る」ことによって、一人一人の生徒の学力向上を目指しています。そのため、学校重点目標や組織体制の改善・充実と学習の環境づくりに取り組んでいます。

●確プロの位置づけ●

学習確認プログラムの実施前に、「学習のまとめの日」を設定しています。生徒の理解が十分でないところを確認・解消できる時間です。また、教員自身が授業進度を確認できる機会ともなっています。

「まとめの日」の設定により、子どもたちは学習確認プログラムの重要性を意識することができ、予習シートや復習シートに取り組む意欲が高まります。もちろん、予習シートに取り組んだかどうかのチェックは「徹底」しています。

このような環境・実践の中で、

「課題をやり切らせること」を徹底

この成果もあり、学習確認プログラムの指数が10ポイント伸びた学年もあります。

●自由学習室の活用●

放課後学習、土曜学習や定期テスト・各種検定に向けた学習に利用する「みらスタルーム」を整備しています。また、各フロアーには多目的室を準備し、随時活用しています。

未来スタディ・サポート教室（中学校の放課後学習）は年間を通じて週1～2回実施し、補充学習の充実を図っています。質問や困りのある生徒へ常に学校体制で対応できるようにしています。



●「学力向上チーム」の強化●

①校務分掌上の位置づけ

研究部組織のトップに位置づけ、学力向上について議論する定例会議として月一回程度開催しています。各学年や教科からの意見を出し合い、確プロのまとめや対策等について校内研修などで共有化を図っています。

②構成メンバーの増強

学年や教科等の代表が参加し、各立場からの課題点や改善策などの意見をもち寄ります。また会議内容を学年会、教科会のを通して全教職員に浸透させています。

③PDCAサイクルの充実

各種テスト等の結果分析はもちろん、それを受けての提案、実践を重視しています。（上記「確プロの位置づけ」、「自由学習室の活用」につながりました。）

●進路実現に向けて●

全学年が通る廊下には、3年生の(学習)年間予定表を掲示しています。進路を見据えて、どの時期にどのような勉強をすればよいかわかります。また、1・2年生も普段から目にするので、3年生になったときの姿を早い段階から意識することができます。



自ら家庭学習に取り組む児童・生徒を育てるために！

「平日の家庭学習(学習塾等で勉強している時間を含む)が30分未満」の子どもの割合は、中学校では全国平均の13.2%に対して京都市平均は20.0%(約1,800人)、小学校においても全国平均の11.3%に対して京都市平均は13.8%(約1,400人)と高くなっています。そのうち、中学校では約800人、小学校では約380人の子どもが「全くしない」と回答しています。(平成29年度全国学力・学習状況調査の結果から)

自主学習の手引きになるのは？

自学自習のすすめ



子どもたちに家庭での学習習慣を身に付けるため、自学自習の方法と内容をまとめた「自学自習のすすめ」をさらに活用しましょう。

- 年度当初や長期休業の前に、学校だより等に掲載して、家庭での積極的な活用を促す。
- 家庭における自主学習のあり方を教室で指導する際の手引きにする。

↓ 実践例として

学校別やブロック別のオリジナル冊子の作成と配付！

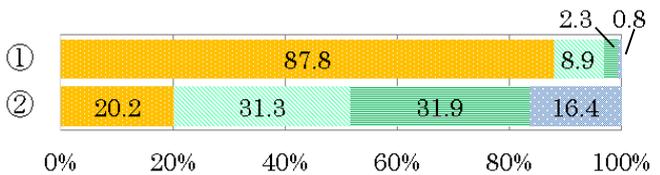
教室や廊下に掲示した、優れた「自主学習ノート」は、子どもたちが自主学習に取り組む際の手引きとなります。



ノートの掲示

子どもたちの回答から考えましょう。

- している
- どちらかといえばしている
- あまりしていない
- 全くしていない



(平成29年度全国学力・学習状況調査から)

問い①は「家で学校の宿題をしていますか」で、問い②は「家で学校の授業の復習をしていますか」です。

宿題には復習的な内容が多く含まれているはずですが、子どもたちはそれらを「授業の復習」とは捉えていないように思われます。

宿題が単なる「作業的な練習」になっていないでしょうか。授業と宿題との連動性や、宿題が子どもたちに培う力について、私たち教師自身がまず問い直し、子どもたちと一緒に考えたいものです。

宿題や自主学習でどんな力を培うのかを共通理解！

学習プリントを活用しましょう。

東京書籍〈問題データベース〉



宿題の課題に

自主学習の課題に

課外学習の課題に

- 一人一人に配付する。
- 教室に常時設置する。

「東京書籍 問題データベース」から、小中合計で約10,000枚のプリントを利用できます。

基本的な内容から発展的な内容まで、また、全国学力調査問題や高校入試問題など、様々なレベルの問題が豊富にあります。ぜひ活用してください。

週予定表(週学習計画表)を見直しましょう。

	国語	算数	英語	社会
クラブ活動	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)
持ち帰り	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)
宿題・家庭学習	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)	読書の会(11月)

週予定表(週学習計画表)を作成・配付されている担任の先生方も多いと思います。この内容や活用の方法を、今一度検討してみましょう。(形だけになっていませんか?)

- 自らの計画を考え、表に記入する時間を常時時間等に確保し、担任から助言と指導をする。
- 子ども自身でPDCAサイクルでの学習が展開できるよう、特に、P(計画)やC(反省・確認等)の段階での指導の入れ方を工夫する。
- 家庭と連携・協力するための手だてにする。

プリント課題の宝庫

家庭学習にもPDCA

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

光京都イントラ>●3 各課のページ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 平成30年2月・第7号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当(TEL.222-3801)